

内外交差点

観光タク拡充、今やるしかない！ 箱根温泉宿、働き手は皆フィリピン人

大岡 理人氏（南タクシー社長） 第8/12回

部下に「何か困っていることはない？（否定疑問文）」と聞いて「はい」という返事なら、その部下に困り事は「ない」だろう——。部下が日本人なら。外国人の部下なら困っていることがあるかも知れない。外国人は自分が肯定か否定かで答えるので、「寿司は好き？嫌い？」と、どっちで聞いても、好きなら「はい」と答える。YES、NOは即答するが日本語能力不足で続きの言葉が出ない人もいる。やさしい日本語で話す生野区（役所）発祥の話術がある。多文化共生の生野区民は、相手が外国人なら「飲食はご遠慮願います」と言わず「飲む、食べるはできません」と言う。

私の息子は英検準1級だが「言語能力」と「相手文化を理解、傾聴しながら分かりやすく話すこと」は別の能力だと教えている。言葉はあくまで道具だ。10年前から大阪タクシーセンター主導で運用中の「国際ビジターズタクシー」研修テキストに記載されている「言葉の上達だけでなく文化も理解しよう」とは、まさにその通りで、外国では「私の妻は出来が悪くて…」などの冗談（謙遜）は、「何で自分の家族を悪く言うの？」と聞き手が不思議に思う。多くの外国人は家族の悪口は外では冗談でも言わない。贈答時の「つまらぬものですが…」もそうだ。観光資源が豊富なのに最高のPRをしない（自虐的）一部の大阪人。先日御朱印巡りの貸切注文をいただいたが、府下には3200の寺院がある。月間100万人以上外客来阪、一冬過ごせば160の国地域の叡智が大阪に集結、子どもたちの想像力を飛躍させる魔法の祭典が184日も開催。「なにわは最高！大阪案内はタクシーに任せてや！」と自己肯定感、大阪検定問題や観光巡りを自作するぐらいの意欲、大阪観光局との連携が必要だ。ひろゆきと東出昌大が中南米を旅するインターネット番組でも、都市間移動はバスだが、街ごとの観光はすべてタクシーにお任せである。

さて、大阪では万博前夜には宿泊税、大阪城入城料も現行の2倍に！すなわち、「来阪観光客への課税」だ。現在の天守閣は1931年の市民寄付100%で建設された。宿泊税用途は一過性のものではなく、駐車場整備などを望む。汚職やIR転用は許さない。タクシー料金の変動制

の是非については、岩城秀行氏の本連載過去分（インターネットで「交通界」と検索、画面左上の内外交差点のバナーをクリック）が詳しいが、宿泊料金はもう10年前から変

動制か。最近では外国人向けの二重価格を設定しようとする動きがある。姫路市長が姫路城入城料（平成大普請前の600円から現在1000円）を「外国人は30ドルにしたい」と言って反対された。マチュピチュ、ガラパゴス島、タージマホールなど多くの観光地で、外国人料金が高く設定されている。ベネツィア水上バスも住民用と観光用で乗場が異なり、観光人数制限もある。バリ島では今年から15万ルピア（1500円）の観光税の徴収を始めた。逆に安く設定されている外国人料金といえばJR全線乗り放題「ジャパン・レールパス」。昨年6割値上げしたが、それでも安い。鉄道ファンから日本人にも適用するという声が多い、鉄道通の石破茂首相はどうお思いか。

廃線増加の鉄道・バス路線やトラックの自動運転やオンデマンド化、タクシーの進化に、違法白タク排除——国交省の守備範囲は過多傾向。観光庁から観光省への格上げは絶対必要だ。財源コントロール可能な省として観光GDPを倍増させる。関空の入国審査1時間超、鎌倉の「大仏さんへは手前駅で降りて歩いていきましょう」運動（江ノ電ではさばけないので江ノ電も協力、徒歩30分超）、ホテル建設ラッシュや地価高騰で「京都人が京都に住めない」等々、何よりも観光産業への担い手確保を解決しながら。「観光誘致と観光公害のバランスを取ることが重要」と吉村洋文・大阪府知事。政府高官の意識改革も必要だろう。「仕事が主で余暇は従」の主従関係ではなく車の両輪のようにどちらも主である。

ワーク&ライフバランス。タクシー乗務員の年休利用率は100%だが、他産業では強制して「取れ」という。男性育児休暇制度実現などの功績がある与党女性議員も、息抜きにパリに研修旅行へ行ったらエッフェル塔で記念撮影ぐらいするだろう。党執行部が「公務だぞ、観光気分で浮かれるな」と嚴重注意する意味が分からない（研修報告書は是非見たいが）。男性諸君も、仕事で来阪したら鶴橋で焼き肉を食べて色気のある所に行きたいだろう。それと同じだ。5年後に「稼働率が5割」の予測もあるタクシー業界、外国人を外国人がおもてなしする時代はすぐそこにあるかもしれない。先に紹介した「インタク」の取り組みを本格化させるのは今だ！

